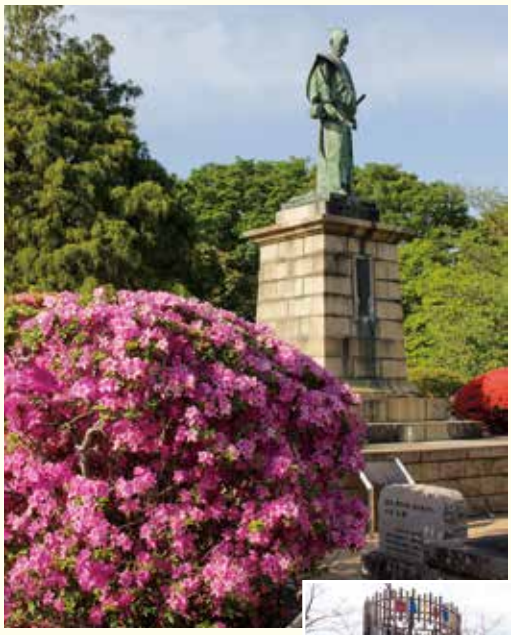
第167号
令和5年4月28日発行

地域景況レポート

2023年「令和4年度第4期（1月～3月期）」

とっかけ

“新緑の季節が到来”
ツツジも見ごろに



▲安藤対馬守信正公の銅像近くで咲き誇るツツジ

松ケ岡公園

「松ケ岡公園」（いわき市平字薬王寺台）は、明治40年、平町議会が日露戦争記念事業として公園建設に着手し、防火用水をかねた大貯水池をつくり、これを中心として桜、梅、ツツジを植えて整備された市内で最も古い公園です。

桜の名所として知られていますが、新緑の時期に見ごろを迎える『ツツジ』は、東京大塚にあった旧平城主安藤邸内の古ツツジを移植し、現在は園内に約340本があり、ツツジの有数の名所としても知られています。

また、園内には、平藩主安藤対馬守信正公の銅像や天田愚庵邸、忠魂碑のほか、子どもたちが楽しめる複合遊具もあります。

ツツジは、いわき市の「市の花」で、花見シーズンには、赤、紫、白の大きな花びらをつけたツツジが優雅に咲き誇り、多くの家族連れや行楽客で賑わいます。

目　次

表　紙　“新緑の季節が到来”ツツジも見ごろに
1～5　中小企業景気動向調査の集計結果
特別調査「中小企業におけるデジタル化への対応について」
6　企業紹介㊵「坂本紙店」
7　市内の観光歴史めぐり：差塩湿原／向日葵

100年のありがとう
街の応援団・町のパートナー
ひまわり信用金庫

中小企業景気動向調査の集計結果

[調査対象企業数　370 社]
[回答企業数　365 社]
[回収率　98.6%]

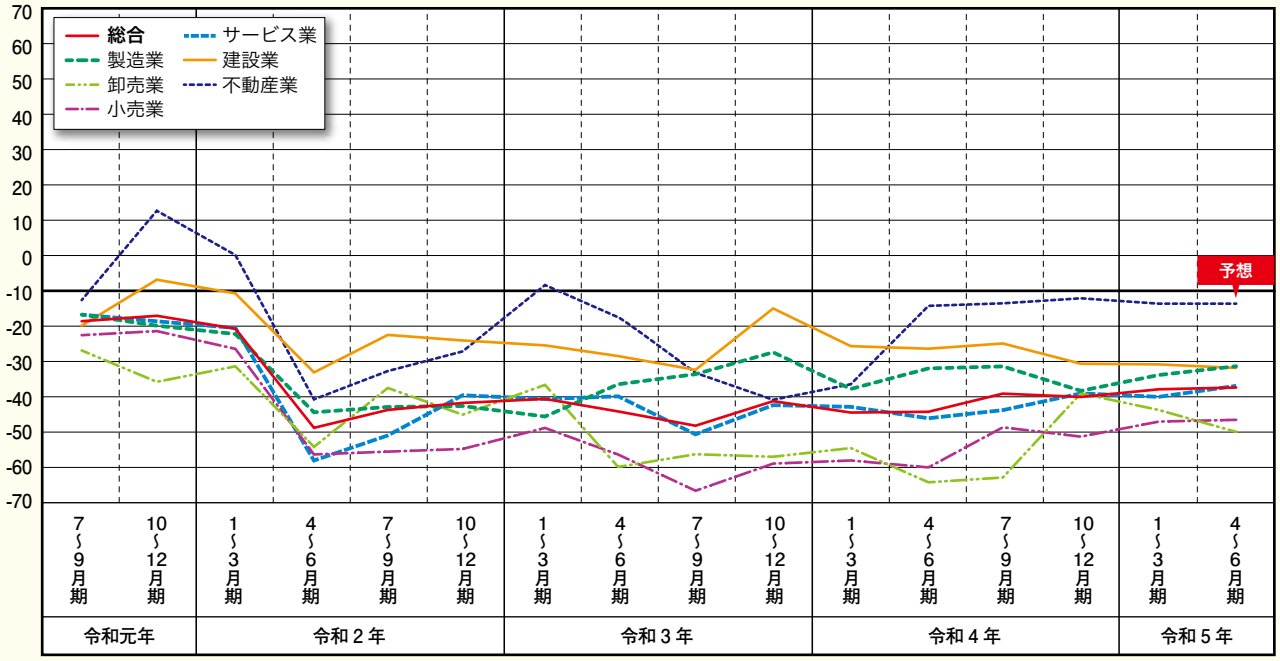
景気動向調査回答企業　（先）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計
平・内郷方部（本店・四倉・豊間・内郷・平窪・好間・中央台支店の地域）	25	13	43	29	23	9	142
小名浜・常磐方部（小名浜・泉・湯本・遠野・鹿島支店の地域）	26	12	37	21	25	9	130
勿来方部（植田・錦・勿来・中岡支店の地域）	20	3	30	20	15	5	93
合計	**71**	**28**	**110**	**70**	**63**	**23**	**365**

概　況

業況はわずかに改善し、先行きについてはほぼ横ばいで推移する見通し

令和５年１月～３月期の自企業の業況 DI を前回調査（令和４年 10 月～ 12 月期）と比較すると、いわき市全域で「悪化」超 37.8％と 2.2 ポイント悪化超幅が縮小した。前回調査時の「今期予想」では「悪化」超を 40.7％とみていたので、予想よりも 2.9 ポイント悪化超幅が縮小した。地域別では、小名浜・常磐方部は「悪化」超 32.6％と 2.3 ポイント悪化超幅が縮小、勿来方部も「悪化」超 44.1％と 9.7 ポイント悪化超幅が縮小した。一方、平・内郷方部は「悪化」38.7％と 2.6 ポイント悪化超幅が拡大した。先行き（令和５年４月～６月期）は、いわき市全域で「悪化」超 37.3％と、ほぼ横ばいで推移すると見込まれている。



自企業の業況

※ DI（Diffusion Index）値とは
　景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。「とっかけ」も DI 値を使用しています。

業種別・地域別業況

一部業種で改善が見られ業種全体ではわずかに改善、先行きは業種全体でほぼ横ばいで推移する見通し

前回調査（令和４年10月～12月期）と今回調査（令和５年１月～３月期）を業種別にみると、製造業は「悪化」超33.8％と悪化超幅が5.1ポイント縮小、小売業は「悪化」超47.3％と悪化超幅が5.4ポイント縮小した。一方、卸売業は「悪化」超42.9％と悪化超幅が3.6ポイント拡大、サービス業は「悪化」超40.0％と悪化超幅が0.6ポイント拡大、不動産業も「悪化」超13.0％と悪化超幅が0.5ポイント拡大した。建設業は前回調査と同数の「悪化」超30.2％となった。

先行き（令和５年４月～６月期）は、不動産業は今回調査と同数、製造業、小売業、サービス業は悪化超幅が縮小となる一方、卸売業、建設業は悪化超幅が拡大することから、業種全体では「悪化」超37.3％と、ほぼ横ばいで推移すると見込まれている。

業種別の業況

（　）は前回調査時の今期予想［単位：%］

業種別	令和4年10月～12月期	令和5年1月～3月期	令和5年4月～6月期(予想)
総合	▲40.0	▲37.8(▲40.7)	▲37.3
製造業	▲38.9	▲33.8(▲33.3)	▲31.0
卸売業	▲39.3	▲42.9(▲42.9)	▲50.0
小売業	▲52.7	▲47.3(▲52.7)	▲46.4
サービス業	▲39.4	▲40.0(▲42.3)	▲37.1
建設業	▲30.2	▲30.2(▲33.9)	▲31.7
不動産業	▲12.5	▲13.0(▲16.7)	▲13.0

地域別の業況［方部別の推移］

［単位：%］

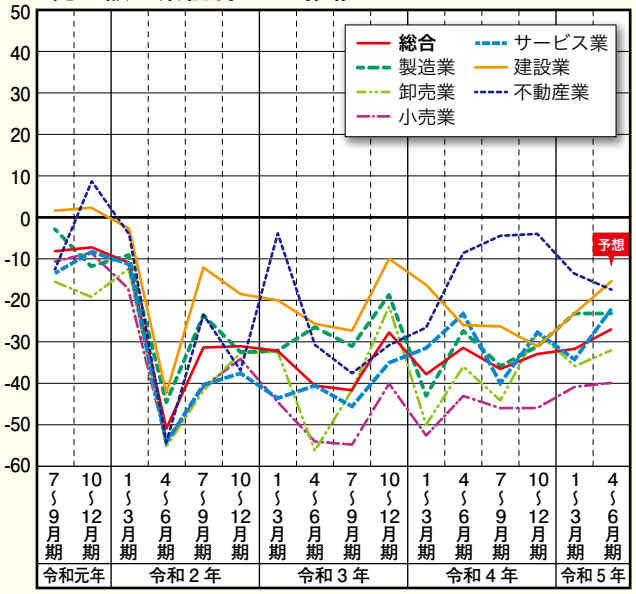
方部別	令和4年10月～12月期	令和5年1月～3月期	令和5年4月～6月期(予想)
いわき市全域	▲40.0	▲37.8	▲37.3
平・内郷方部（本店・四倉・豊間・内郷・平窪・好間・中央台支店の地域）	▲36.1	▲38.7	▲31.7
小名浜・常磐方部（小名浜・泉・湯本・遠野・鹿島支店の地域）	▲34.9	▲32.6	▲34.6
勿来方部（植田・錦・勿来・中岡支店の地域）	▲53.8	▲44.1	▲49.5

※▲は「悪化」超

売上額

売上額は、前回調査（令和４年10月～12月期）の「減少」超33.2％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、「減少」超31.2％と2.0ポイント減少超幅が縮少した。また、先行き（令和５年４月～６月期）は、「減少」超27.4％と、売上額の減少を見込まれている企業がやや減少している。

売上額の業種別DIの推移



受注残

製造業は、前回調査（令和４年10月～12月期）の「減少」超29.2％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、「減少」超18.3％と10.9ポイント減少超幅が縮小した。先行き（令和５年４月～６月期）は、今回調査と同数の「悪化」超18.3％を見込まれている。

建設業は、前回調査（令和４年10月～12月期）の「減少」超25.4％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、「減少」超17.5％と7.9ポイント減少超幅が縮小した。先行き（令和５年４月～６月期）は、「減少」超14.3％と、受注残の減少を見込まれている企業がやや減少している。

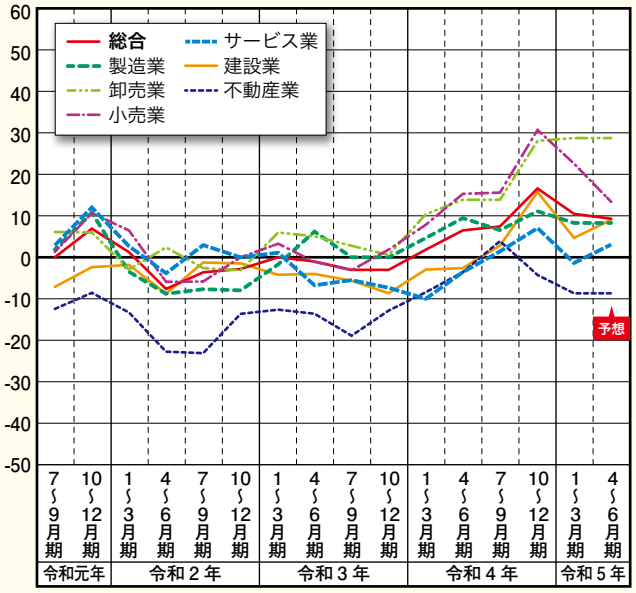
施工高

建設業における施工高は、前回調査（令和４年10月～12月期）の「減少」超25.4％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、「減少」超12.7％と12.7ポイント減少超幅が縮小した。

先行き（令和５年４月～６月期）は、「減少」超6.3％と、施工高の減少を見込まれている企業が減少している。

販売・請負価格

販売・請負価格の業種別 DI の推移



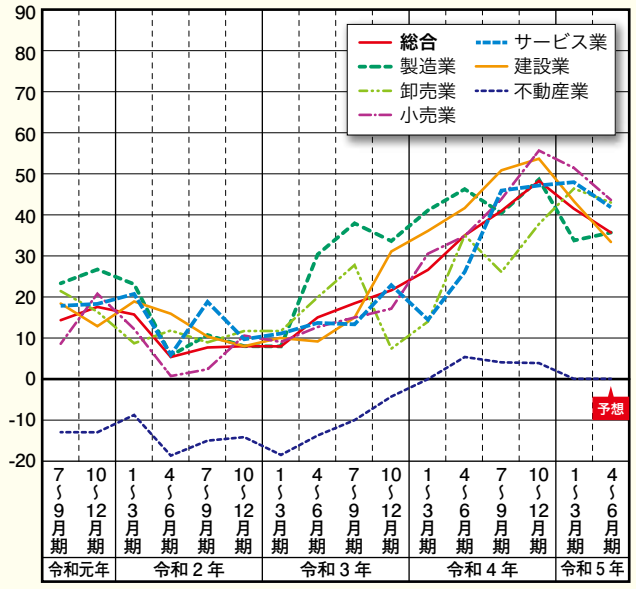
販売・請負価格は、業種全体で前回調査（令和４年10月～12月期）の「上昇」超17.3％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、「上昇」超10.7％と6.6ポイント上昇超幅が縮小した。

業種別では、卸売業は前回調査と同数、その他の業種は「下降」超となった。

先行き（令和５年４月～６月期）は、サービス業、建設業は「上昇」超、小売業は「下降」超、その他の業種は今回と同数を見込まれていることから、業種全体で「上昇」超9.6％と、販売・請負価格の上昇を見込まれている企業が僅かに減少している。

原材料・仕入れ価格

原材料・仕入れ価格の業種別 DI の推移



原材料・仕入れ価格は、業種全体で前回調査（令和４年10月～12月期）の「上昇」超48.1％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、「上昇」超42.4％と5.7ポイント上昇超幅が縮小した。

先行き（令和５年４月～６月期）は、業種全体で「上昇」超35.3％と、原材料・仕入れ価格の上昇を見込まれている企業が減少している。

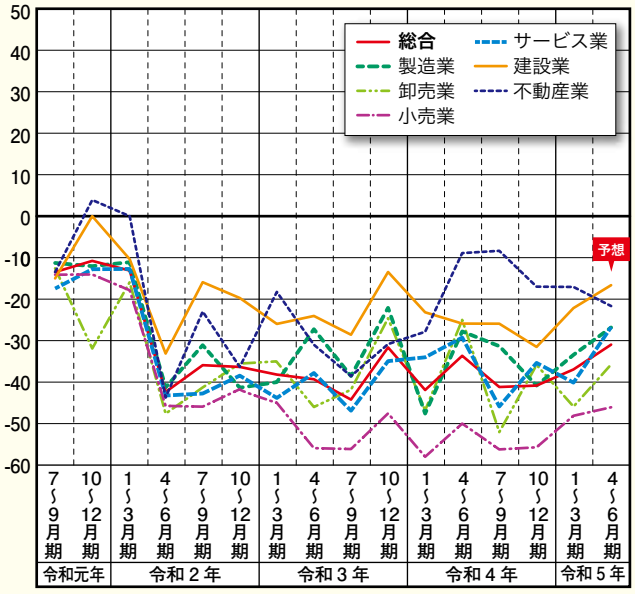
収益

収益は、業種全体で前回調査（令和４年10月～12月期）の「減少」超40.5％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、「減少」超37.3％と3.2ポイント減少超幅が縮小した。

業種別に前回調査（令和４年10月～12月期）と今回調査（令和５年１月～３月期）を比較すると、製造業、小売業、建設業は減少超幅が縮小した一方、卸売業、サービス業、不動産業は減少超幅が拡大した。

先行き（令和５年４月～６月期）は、業種全体で「減少」超31.5％と、収益の減少を見込まれている企業が減少している。

収益の業種別 DI の推移



在庫

在庫の状況は、業種全体で前回調査、（令和４年10月～12月期）の「不足」超3.4％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、「不足」超1.7％と1.7ポイント減少超幅が縮小した。

先行き（令和５年４月～６月期）は、小売業で「不足」超幅が拡大するほか、建設業で「過剰」超から「不足」超になることが見込まれていることから、業種全体で「不足」超3.1％が見込まれている。

▸▸ 資金繰り

資金繰りは、引き続きすべての業種で「苦しい」超となっており、業種全体でも「苦しい」超23.1％となった。

先行き（令和５年４月～６月期）も、すべての業種で「苦しい」超としており、業種全体で「苦しい」超22.5％と資金繰りが「苦しい」とする企業が僅かに減少しているものの、資金繰りは、今後も厳しい状況が続くものと思われる。

▸▸ 金融機関借り入れ状況

金融機関からの借り入れ状況は、全体の91.0％の企業が「借り入れしない」とした。

今後の借り入れ予定についても、すべての業種で「借り入れの予定なし」とした企業が「借り入れの予定あり」とした企業を上回っており、全体の92.6％の企業が「借り入れの予定なし」としている。

また、金融機関からの借り入れ難易度は、「難しい」・「該当なし」とする企業の割合が前回調査（令和４年10月～12月期）の89.5％に対し、今回調査（令和５年１月～３月期）では、90.4％と、僅かに増加しており、借り入れは行わないとする考え方は、依然として変わっていない。

▸▸ 設備の状況

設備の状況は、９割の企業（令和５年１月～３月期93.0％、令和５年４月～６月期予想93.6％）が「適正」とした。

なお、「適正」以外の回答をみると、今回調査（令和５年１月～３月期）では、全ての業種で「不足」・「やや不足」とする企業が「過剰」・「やや過剰」とする企業を上回ったことから、業種全体で「不足」超4.1％と前回調査と同様「不足」超の状況となった。

設備投資の実施・予定

上段：先数
下段：比率（％）

業種	令和５年１月～３月期							令和５年４月～６月期						
	土地・建物	機械・新増	機械・更改	事務機器	車両	その他	実施しない	土地・建物	機械・新増	機械・更改	事務機器	車両	その他	実施しない
総合	1 0.3	8 2.3	5 1.4	3 0.9	11 3.2	2 0.6	317 91.4	0 0.0	5 1.4	4 1.2	7 2.0	76 21.9	1 0.3	254 73.2
製造業	0 0.0	6 8.1	1 1.4	0 0.0	5 6.8	0 0.0	62 83.7	0 0.0	1 1.4	1 1.4	2 2.8	33 45.8	0 0.0	35 48.6
卸売業	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.6	0 0.0	0 0.0	27 96.4	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0	11 37.9	0 0.0	17 58.7
小売業	0 0.0	―	―	1 0.9	1 0.9	1 0.9	107 97.3	0 0.0	―	―	2 1.8	0 0.0	1 0.9	107 97.3
サービス業	0 0.0	1 1.4	2 2.8	0 0.0	2 2.8	0 0.0	66 93.0	0 0.0	1 1.4	2 2.8	1 1.4	2 2.8	0 0.0	66 91.6
建設業	1 1.6	1 1.6	2 3.1	1 1.6	3 4.7	1 1.6	55 85.8	0 0.0	3 4.7	0 0.0	2 3.1	30 46.9	0 0.0	29 45.3

経営上の問題点

（複数回答）

項目	計	業種別					
		製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
売上の停滞・減少	193	30	20	61	41	32	9
原材料高（材料価格の上昇）	87	34	―	―	23	30	―
利幅の縮小	74	11	6	27	13	13	4
同業者間の競争の激化	73	9	5	19	18	15	7
人手不足	45	6	0	10	10	18	1
仕入先からの値上げ要請	43	3	5	35	―	―	―
大手企業（大型店）との競争の激化	33	0	―	20	4	7	2
取引先の減少	22	―	6	12	4	―	―
人件費の増加	18	5	2	1	6	2	2
商店街の集客力の低下	13	―	―	13	―	―	―
販売商品（商品物件）の不足	12	―	2	3	―	―	7
工場（店舗）・設備（機械）の狭小・老朽化	11	5	0	4	2	―	―
その他	83	20	9	18	15	17	4
問題なし	45	10	1	14	8	8	4
合計	752	133	56	237	144	142	40

当面の重点経営施策（経営のポイント）

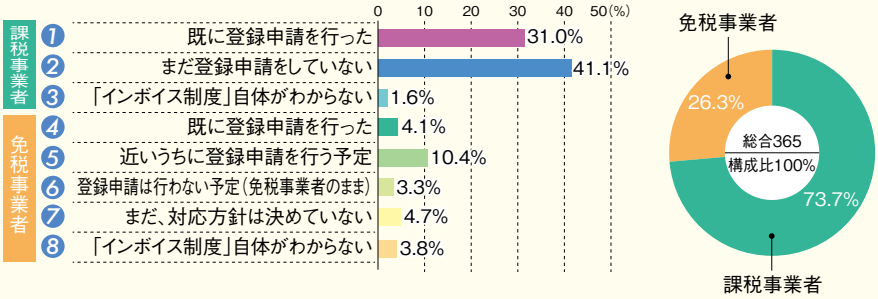
（複数回答）

項目	計	業種別					
		製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
経費を節減する	221	42	18	68	45	40	8
販路を広げる	96	28	11	―	20	29	8
宣伝・広告を強化する	62	―	―	30	23	―	9
情報力を強化する	41	14	7	―	―	13	7
人材を確保する	39	8	1	5	8	16	1
提携先を見つける	37	10	5	―	11	―	11
品揃えを改善（充実）する	36	―	8	28	―	―	―
売れ筋商品を取り扱う	24	―	―	24	―	―	―
技術力を強化する（高める）	24	―	―	―	5	19	―
仕入先を開拓・選別する	9	―	―	9	―	―	―
教育訓練を強化する	7	3	0	0	3	1	0
機械化を推進する	6	3	0	0	3	―	0
その他	31	9	1	11	2	6	2
特になし	62	11	2	23	11	12	3
合計	695	128	53	198	131	136	49

特別調査「中小企業におけるデジタル化への対応について」

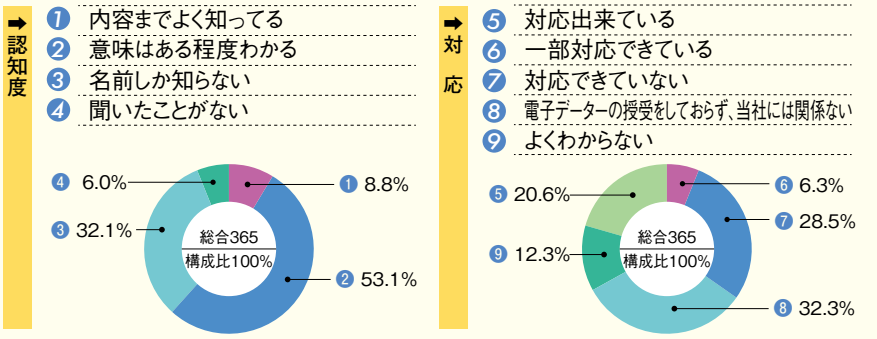
問1

2023年10月に開始予定の「インボイス制度（適格請求書等保存方式）」へ向けて、インボイス(適格請求書)発行事業者への登録申請を求める動きがありますが、貴社ではどのように対応をしていますか。現在、消費税を納付している「課税事業者」の方は1～3の中から、消費税の納税免除を受けている「免税事業者」の方は4～8の中から、それぞれ最もあてはまるものを1つ、選んでお答えください。



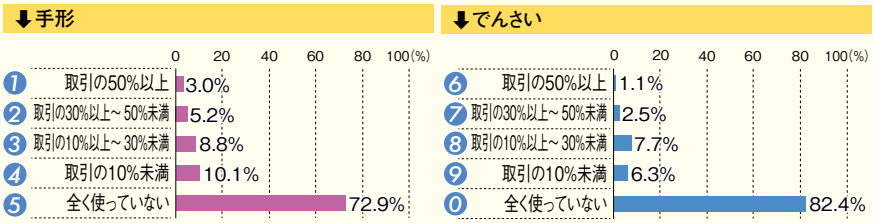
問2

電子帳簿保存法（電帳法）が改正され、請求書などに関する電子データを送付・受領した場合には、その電子データを一定の要件を満たした形で保存することが必要となりました。この改正について、貴社の認知度を1～4の中から、対応を5～9の中から、それぞれ1つお答えください。



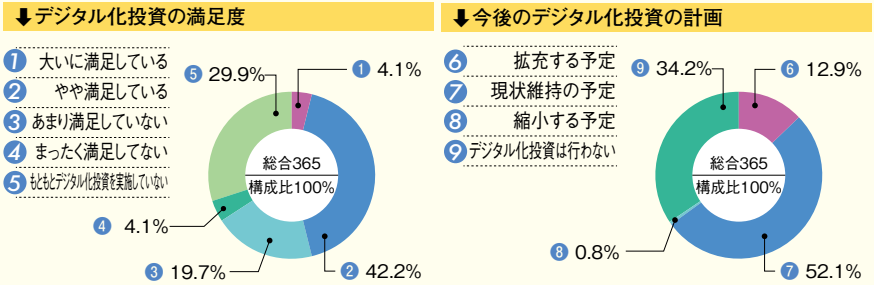
問3

貴社では、企業間での資金決済の際、手形をどの程度利用していますか。また、でんさい（電子記録債権）をどの程度利用していますか。手形については1～5の中から、でんさいについては6～0の中から、それぞれ1つお答えください。



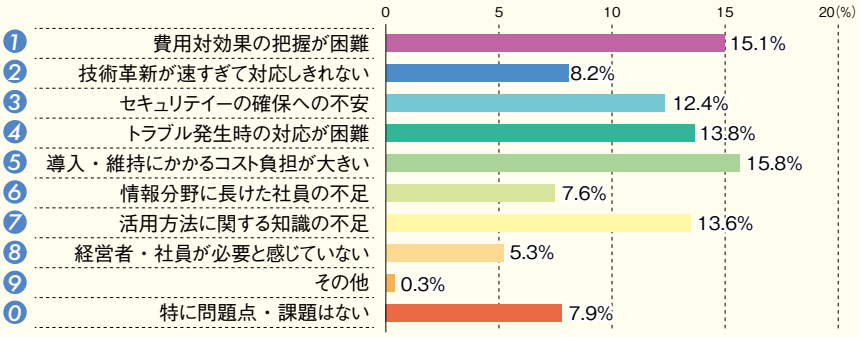
問4

貴社では、これまで行ってきたデジタル化投資（コンピューター、ネットワーク関連機器・ソフトウエアの購入、利用環境の整備等全般）の費用対効果について、どのように感じていますか。1～5の中から1つお答えください。また、今後のデジタル化投資の計画について、6～9の中から1つお答えください。



問5

貴社では、デジタル化を進めるに際しての問題点・課題として、どのようなものが考えられますか。次の1～0の中から最大3つまでお答え下さい。



企業紹介 ㊵

public relations

坂本紙店

代表取締役
坂本　匡藏（きょうぞう）

思わず笑顔になる文具店。

かわいい文房具、おしゃれな文房具、面白い文房具、懐かしい文房具、リーズナブルな文房具、ちょっといい文房具。

豊富な文房具の中にお探しの商品がきっとあるはず。

商品を手に取ったらぜひお声がけください。

文房具のプロがおすすめポイントをお伝えいたします。

笑顔あふれる店内に楽しさをたくさん詰め込んで、皆さまのご来店をお待ちしております。

明治 15（1882）年創業で印刷業を営んでいた平活版所から分社化。坂本紙店は、紙問屋として大正 7（1918）年に開業。和洋紙、文房具の販売を始めた。

商圏の広い紙問屋大手の台頭などもあり、コピー用紙を主力に転換。時代の変化に合わせて、オフィス家具、事務用品など単価の高い商品にも対応し、顧客の幅広い要望にこたえられる数万点の品ぞろえを有する、コンパクトな商社的営業スタイルを確立した。

コロナ禍によるリモートワーク、OA 化、ペーパーレス化など、紙の使用量も落ちてきている昨今。文房具店でありながら、他の販売店にはない商品の取り扱いや、線香、紙線香、扇なども扱い、同店でしか買えない品を求める根強いファンが支える。店内では駄菓子販売も始め、学校前の文具店兼駄菓子店をイメージ。子どもから、社会人、リタイアしたシニアまで、幅広い年齢層にアピールする。

コロナ禍前には毎年行っていた文具フェアも、今年 2 月に復活させ、メーカー各社の協力を得て約 3,000 人のファンが来店した。同様に 4 年ぶりに通常開催となる「いわき七夕まつり」にも、商店会の一員として参加する。これまで、趣向を凝らした同店ならではの飾り付け、「ノートくじ」、「消しゴムつかみ取り」などの企画で人気を集めてきている。

JR いわき駅前のほか、平地区全体で進む再開発事業を契機に、いわき全体と平の町を盛り上げるため、この追い風を生かしていきたいと、日々努力を惜しまない。

住　〒970－8026　いわき市平字一町目15
☎　0246－24－1123
営　平　日/午前10時30分～午後7時
　　日・祝/午前10時30分～午後6時
休　毎週水曜日

市内の観光歴史めぐり

（いわき市三和町差塩字東作）

ミシガシワの咲く湿原（いわき市観光まちづくりビューローHPより）

毎年５月には氷期の生き残りの植物といわれる『ミツガシワ』が開花し、素晴らしい景観です。昭和61（1986）年３月28日に市の天然記念物に指定されました。

（写真左＝冊子･いわき市の文化財より）

差塩湿原
（さいそしつげん）

いわき市には、多くの観光歴史名所があります。

「市内の観光歴史めぐり」として、差塩湿原を紹介します。

差塩湿原は、阿武隈山地の海抜500mの高地にある低層湿原で、今から約２万年前の最終氷河期にできたとされています。

この湿原は現在、大部分は農地や宅地となり、上流部に太古の姿を残し、湿原特有の植物群を保存しており、植物学上、貴重な存在です。

湿原の植物の中でも、ミツガシワ、ミズドクサ、サギスゲ、ウメバチソウは更新世最終氷期の遺存植物で、差塩地区が寒冷気候の時代をすごしたことを意味しています。

その上、縄文海進の温暖時代に多くの氷期遺存植物が絶滅した中で、温暖環境に適応して今日の隔離分布をするに至ったのは、近年まで周囲が深い森林で覆われ、絶えず冷水が供給され続けていた証拠でもあります。

車：磐越自動車道いわき三和インターから車で約25分

column

向日葵

日本銀行福島支店は、2023年４月に公表した2023年３月分の福島県金融経済概況で、県内景気は、生産面の一部に弱めの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響が和らいでおり、基調としては緩やかに持ち直している。

最終需要の動向をみると、個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐ中、持ち直している。住宅投資は、減少している。設備投資は、一部に弱めの動きがみられるものの、総じてみると増加している。公共投資は、下げ止まっていると公表されております。

当金庫の令和５年１月～３月期の中小企業景気動向調査の業況をみると、いわき市全域では、前回調査（令和４年10月～12月期）と比較し、業種全体で僅かに改善しています。なお、資金繰りについては、依然としてすべての業種で「苦しい」超となっており、先行きもすべての業種で「苦しい」超となっています。

当金庫は、今後もお客様の様々な課題解決のお手伝いをさせていただくため、お客様に寄り添い、積極的にかつ迅速に取り組んで参ります。

発行／ひまわり信用金庫
〒970－8026　いわき市平字二町目10
編集／総務部　総務グループ　TEL.0246－23－8500
http://www.shinkin.co.jp/himawari/

▶『とっかけ』とは　「始める」「取りかかる」という意味のいわき地方の方言です。この情報を、何かを始めようとする時のきっかけ、取っかかりにして頂ければ幸いです。